

子ども食堂を中心とした 「つながり」のまちづくり

福島県福島市 特定非営利活動法人ビーンズふくしま

つながりの場としての「子ども食堂」

2018年7月にスタートし、延べ3000人以上が訪れた子ども食堂。『よし이다キッチン』。多くの子どもたちが集い、学び、遊びそして食事を通してたくさんさんの笑い声と笑顔が生まれており、子どもも大人も『楽しい』を通してつながりあえる場になりました。

子どもたちが安心して過ごせる居場所

子どもたちが『ただいま』と言って訪れる地域の居場所が少なくなっているのが、現在の現状です。

『よし이다キッチン』は子どもたちが自分らしく、安心できる居場所、ここにいていい

だと思える居場所。そして、『よし이다キッチン』という安全基地で『食べる学ぶ遊ぶ』を通して、多様な経験をし、たくさんさんの大人と触れ合うことで、子どもたちの自信をゆつくりゆつくりと育んでいます。

地域と一緒に子どもたちの育ちを支える

子どもたちと一緒に遊んだり、勉強を教えたりするのは高校生から大学生までの学生ボランティアの皆さん。調理食材は引きこもりの青年期が収穫した野菜だったり。調理や食材提供では企業の皆様や地域の方々、民生委員さん。本当に多くの人たちに支えられていると同時に、『よし이다キッチン』は地域のプラットフォームとしての役割も併せ持つて

います。地位も立場も関係なく、全員がごちゃ混ぜになってとにかくつながりあい、大人も



「2020年11月コロナ禍の中での子ども食堂」 子どもたちの楽しいひと時、食事の様子





「2020年11月コロナ禍での子ども食堂」 高校生や大学生のみなさん、そして地域の皆さんと一緒に、コロナ禍の中でも子どもたちのためにできることを地域一丸となって開催

子どもも一緒に食卓を囲んで、笑顔で同じ時間を過ごすという貴重な関係性。だからこそ、子どもたちの困りごとやSOSに気づいたときにしっかりと子どもたちに寄り添うことができると考えています。仲間・時間・空間。地域でどんどん失われていく「三間」が「よしいだキッチン」にはあって、つながりと役割と出番がある。これこそが「地域の居場所の底デカラ」です。今後も学習センター、学校、保健所、社会福祉協議会、民生委員、児童委員そして学生さんや企業まで、しっかりとつながりあうことで、地域で子どもたちの育ちを支え見守っていききたいと考えています。

「つながり」 コロナ禍の中でこそ大切な「つながり」 「つながりだけは切らさない」

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2020年。「よしいだキッチン」もこれまでの活動の在り方を再考する必要性に迫られました。緊急事態宣言の発令、そして子どもたちは休校措置。大人も子どもも外出がままならず、多くの不安を抱えながら過ごす日々。そんな中、民生委員・児童委員さんを始めた地域のみなさんと「子どもたちのために地域として何ができるか」を話し合ったのが2020年3月中旬。「居場所は中止した方がいいのか?」「感染のリスクは?」「子どもたちに必要なことは?」たくさんの議論を経て、満場一致で出た答えは「今こそ、子どもたちの居場所が必要!」でした。

3月は小規模の子ども食堂を開催。4月以降はドライブスルー型でのお弁当の配付やオンラインでの学習支援を実施。全国からの応援物資も本当にたくさん届けて頂きました。休校期間中に久しぶりに会う子どもたち。屈託のない笑顔。「宿題が終わらないよ〜」という何気ない会話。そして、お母さんたちとの会話を通して感じる、先行きの見えない不安感。

「子どもに手をあげてしまってます!」
「どこも行けなくて親も子どもも不安とストレスでもういっぱいなんです!」



「2020年9月ドライブスルー型のお弁当の配付とおおぞら駄菓子屋さん開催の様子」 感染対策のため屋外で実施した放課後の様子。子どもたちはランドセルを背負って楽しみにやってきていました



「2020年11月コロナ禍での子ども食堂」 子どもたちの笑顔あふれる瞬間



(写真・上)「2020年8月子ども食堂よしいだキッチン夏祭り」学校も企業も行政も地域も巻き込んだ夏祭り。20団体以上の協力のもとたくさんの人たちと行った夏祭りの様子
(写真・右)「2020年8月子ども食堂よしいだキッチン夏祭り」1分間約70発の打ち上げ花火。下を向くことが多かった2020年。地域全員が上を向き、涙した瞬間でした



「パートの仕事がなくなって、1食だけのサポートでも本当にありがたいです」
地域の私たちが今できることはやはりこれまでと同じ「つながりを切らさない」ことでした。誰もが不安をぬぐえない中、何かあったときに声を上げることができる人と人とのつながり、小さなSOSをしっかり拾うこと

のできる地域のつながりを切らさないことが、今こそ本当に大切なことでした。

子どもたちの短い夏休みに地域みんなのできること

新型コロナウイルスは、子どもたちが楽しみにしている夏休みにも大きな影響を及ぼしました。イベントも軒並み中止、感染リスクを考慮すると遠出も難しい。短い夏休みに、最高の思い出を子どもたちに。そんな合言葉からスタートした「よしいだキッチン夏祭り&ミニ打ち上げ花火」を8月20日に地域一丸となって開催いたしました。高校生、大学生だけでなく企業、行政、様々な団体、そして地域の皆さん。趣旨に賛同・協力してくださった団体はなんと20団体以上。

1時間ごとの入れ替え制の夏祭りでは、大人は全力でかき氷を作ったり、子どもたちは今年初めての浴衣姿で、高校生のボランティアのみなどと輪投げをしたり、スーパードールすくいをしたりと、笑顔あふれる楽しい夏祭りになりました。そしてクライマックスは夏休み最後に1分だけの打ち上げ花火。たった1分。その1分間に多くの人たちの想いを載せた70発の大きな、大きな打ち上げ花火。下を向くことが多かった2020年、夏休み最後にみんなが上を向いた瞬間でした。



「子ども食堂のボランティアスタッフ」企業・民生委員さん・学校の先生・高齢者の方々・保護者など笑顔あふれる地域の皆さんと「よしいだキッチン」は共に歩んでいます

「今年、初めて最後の浴衣姿です。本当に入りがとつございます！」と涙するお母さんも。地域のつながりのプラットフォームとしての「子ども食堂よしいだキッチン」。地域の中に「安心できる場」や「ホッとできる関係性」をたくさん生み出し、地域の人々全員に出席のあるまちづくり。これからも子どもたちを真ん中に地域の皆さんと歩みながら、新型コロナウイルスもたくさんさんの困りごとも、みんな一緒に笑顔で乗り越えていきたいと思えます。
(特定非営利活動法人ビーンズふくしま)

福島事業部門長 江藤大裕